

第7学年〇組 社会科学習指導案

〇年〇月〇日（曜）〇校時
指導教諭 ○ ○ ○ ○ 印
指導者 ○ ○ ○ ○ 印

1 単元 第3章 世界の諸地域 第3節 アフリカ州 5 アフリカ発展の未来はあるか

2 目 標

- (1) アフリカ州で顕在化している食料問題が、急増する人口、砂漠化、植民地支配された歴史、不安定なモノカルチャー経済などの影響を受けて、他の地域とは異なる現れ方で深刻化していることを理解している。(知識及び技能)
- (2) アフリカ州の自然、気候、人口、歴史的背景、モノカルチャー経済、紛争、資源などの地域内の結び付きに着目して、多面的・多角的に考察し、さらに地域の将来を見通すような表現をしている。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) アフリカ州発展の未来について、持続可能な社会の実現を視野に、アフリカ諸国と先進国それぞれが、互いに向上するような開発を進めていく上での課題を、主体的に追究しようとする態度を養う。(学びに向かう力、人間性等)

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①アフリカ州で顕在化している食料問題が、急増する人口、砂漠化、植民地支配された歴史、不安定なモノカルチャー経済などの影響を受けて、他の地域とは異なる現れ方で深刻化していることを理解している。 ②地図（帳）やグラフをもとに、アフリカの人口の変化のようすや気候・資源・紛争地域の分布を理解している。	①アフリカ州の自然、気候、人口、歴史的背景、モノカルチャー経済、紛争、資源などの地域を特徴づける要素に着目して、食料問題を多面的・多角的に考察し、さらに地域の将来を見通した説明をしている。	①アフリカ州発展の未来について、持続可能な社会の実現を視野に、アフリカ諸国と先進国それぞれが、互いに向上するような開発を進めていく上での課題を、主体的に追究しようとしている。

4 基 盤

(1) 教材について

今年度、本校社会科部では「持続可能な社会の実現」を学年・分野間を貫くテーマとして設定している。1年次は地理的分野「アフリカ州」、2年次は歴史的分野「幕府政治の行き詰まり」、そして、最終年次は公民的分野「世界平和と人類の福祉の増大」で3年間を貫く単元を構想し、ねらいに迫る。そして、1年次は「なぜ、アフリカ州は農業人口が多いのに食料問題が深刻化するのか」という単元を貫く

問い（課題）を追究する。

単元を貫く問い（課題）を追究するために、焦点化された事例として「ガーナ・コートジボアールのカカオ農園を営む人々」を扱う。このカカオ農園を営む人々には、食料問題が深刻化している課題がある。だからこそ、本事例を自然環境、人口、産業、歴史の視点で多面的・多角的に考察することで、アフリカ州の諸課題を浮き彫りにしていく考察、説明の学習ができると考えている。

アフリカ州固有の要素により食料問題が深刻化している近年であるが、外国企業の進出が著しい地域となっている現状もある。単元のまとめでは、「外国企業主導で開発や発展を進めていくことは、アフリカの未来にとって明るいことなのか」という関心をもたせ最終年次の学習につなげたい。また、このように関心を持たせるためには、アジア州の既習事項から先進工業国と発展途上国、環境保全と経済発展を対立軸とした両者の幸福を実現する社会のあり方に迫っていくことが大切と考える。そして「人口が多く、資源に恵まれたアフリカは世界が注目する地域である。一方で、解決すべき課題も多く、特に現地の人々の生活を守りつつどのような開発を進めていくかが大きな課題である」ことを概念として獲得することを目指す。

（２）生徒について

学習課題には概ね意欲的に取り組む姿勢をもっている。個別の事象を理解する力や資料を読み取る力の基礎的な力も身に付いてきている。しかし、単元を貫く問いに迫るためには、それらの知識を関連付けたり活用したりする力が必要である。その点では大きな個人差が見られ、知識を関連付けて概念を獲得するにはいたらない生徒もいる。本単元で例えるならば、アフリカ州の人口が急激に増えていることを資料から読み取り、その原因を考えたり理解したりすることはできても、そのことが我が国の経済にどのような影響を与えるかを問われると答えに窮するような姿が予想される。

その原因として、自国にとっては不利な状況が他国にとっては有利になる、というように事象を多面的にとらえる力の不足が挙げられる。そこで、本単元では、アフリカの自然環境、人口、歴史、産業、紛争を、ガーナのカカオ農園を営む人々の食料問題を焦点化された事例として単元を構造化し、個別の事象を関連付けていこうと考えた。さらに、アフリカ州の地域的特色を学習した後の最終時間に、「なぜ、近年アフリカに進出する外国企業が増えているのか」という問いのもとで理由を考察し、アフリカ州の地域的特色を多面的多角的に理解することを目指したい。

（３）指導について

地理的な見方・考え方は「社会事象を位置や空間的な広がりに着目して捉え、地域の環境条件や地域間の結び付きなどの地域という枠組みの中で、人間の営みと関連付けて」とある。

社会科における「地理的な見方・考え方」、「問い」、「視点」について、視点を明らかにし、「問い」を使って、「見方・考え方」を働かせることが通常である。特に、アフリカ州は、「空間的相互依存作用」や「地域」に着目して考察・表現の学習活動をする。したがって、視点①「空間的相互依存作用」の問いとしては「そこは、そこ以外の場所とどのような関係をもっているのか」「なぜ、そのような結び付きをしているのか」となる。また視点②「地域」の問いとしては「この地域は他の地域とはどこが異なっているのか」「将来、どのような地域にすべきか」である。

具体的には、地球規模の課題である食料問題を主題として、「アフリカ州の食料問題」をガーナ、コートジボアールのカカオ農園を営む人々の生活に焦点を当て、カカオ農園を営む人々の食料問題を考察しながら、アフリカ州の諸課題を浮き彫りにして、アフリカ州の地域的特色を理解するようにしたい。その際、食料問題を引き起こす原因として、カカオ農園の人々にとって「人口の増加」「砂漠化」「植民地支配された歴史」「不安定なモノカルチャー経済」「民族紛争」が、どのような結び付きをしているのかを考察する。授業が進む過程で、5つの要因の中でも互いに結び付きあっている要素があることも学習したい。そして、アフリカ州の食料問題は、5つの要素が主な原因になっているので、他の地域の食

料問題とは異なり解決することが非常に難しいことも学習したい。単元の終わりには、アフリカ州の明るい未来を地域的特色から予想する時間がある。これは「アフリカ州を将来、どのような地域にすべきか」につながる時間であるが、本単元では既習事項であった中国の外国資本による経済発展の光と影という概念的な知識を活用して、予想だけに留めるようにする。しかしながら、本単元の既習事項であるアフリカ州の地域的特色（地理的な見方・考え方）を活用することで、「主体的で対話的で深い学び」の実現を目指すことができると考えている。

5 展開と評価計画（全5時間）

次	時	◎ねらい ○学習内容 ・学習活動	◇評価規準 ◆評価方法
第一次	①	◎アフリカ州では食料問題が深刻化している事実気づく。その原因を予想し、アフリカの地域的特色を追究するための固有の要素を予想する。 ○・アフリカのイメージを出し合い、そのひとつである貧困や飢餓に着目し、食料不足の分布図や穀物自給率などの資料を読み取り、アフリカ地域では食料不足が深刻化していることを理解する。 ○・アフリカで食料問題が深刻化している原因を予想し、どのような視点から追究していくか学習の見通しをもつ。	◇主① ◆学習カードの記述（単元を貫く問いの予想） ◆活動観察（発表）
		【学習課題：単元を貫く問い】なぜアフリカは、農業人口が多いのに食料問題が深刻化しているのだろうか。	
第五次	⑤	◎外国企業にとってのアフリカの経済的な価値を考察することで、アフリカ州の地域的特色を多面的にとらえる。また、アフリカの発展の未来を構想するための問いをもつ。 ○・アフリカに進出している企業の推移を示すグラフを読み取り、日本や中国などの外国企業のアフリカ進出が増えていることを理解する。 ○・これまで学習してきたアフリカの地域的特色から、外国企業がアフリカに進出する理由を考察する。 ○・外国企業主導による開発や発展はアフリカの未来を明るくするかという問いをもつ。	◇知①②，思①，主① ◆活動観察（話し合い，発表） ◆学習カードの記述（単元のまとめ，学習の振り返り）
		【学習課題】なぜ，近年，外国企業のアフリカ進出が増えているのだろうか。	

6 本時の学習

（1）本時の目標

食料問題を抱えている地域的特色に着目して，近年アフリカへの外国企業の進出が増加している理由を多面的・多角的に考え，地域の将来を見通すような表現できる。（思考力，判断力，表現力等）

(2) 展開

	学習場面と生徒の取組	教師の支援と評価
導入	1 前時の学習のふり回り - 単元の問い「なぜ、アフリカ州は、農業人口が多いのに食料問題が深刻化するのか」を追究した結果（学習のまとめ）を発表する 2 資料の読み取り - 近年、アフリカに進出する外国企業が増えていることを知る。	①自然環境, ②人口, ③産業, ④歴史, ⑤紛争の視点に着目することで, 地域の特色をより整理しやすいようにする。 - アフリカ州に企業が進出している客観的事実を理解するために, 読み取る統計資料等を準備して提示する。
展開	3 本時の学習課題の把握 なぜ、近年、外国企業はアフリカに次々と進出しているのだろうか - 個人で理由を考える - 班でそれぞれの考えを共有し, すべての視点から改めて理由を考える - 発表して全体で共有する [予想される意見] - 未開拓の地域が多く, 広大な土地がある。 - 若年人口が多いので, 今後は豊かな労働力につながると考えられる。 - 石油やレアメタルなど豊かな鉱産資源が得られる - ヨーロッパとのつながりを貿易に活用できる - 近年は紛争が減り, 外国企業が進出しやすくなった。 - 食料問題を抱える地域の特色に着目して, 学習課題の探究がしやすいように, 5つの資料を提示し, 既習事項の喚起をうながすようにする。 - 外国企業にとっては, アフリカの地域的特色を形づける諸課題も, 別の付加価値により魅力や期待できる要素になることに気付かせる。 ・資源に恵まれ, 人口が多く, 今後豊かな労働力や消費力をもつことになるアフリカは世界が注目する地域であることを理解する。	5つの視点で外国企業の立場でアフリカの地域の特色を捉え直し, 企業進出の理由を説明できるようにする。
まとめ	外国企業主導の開発や発展は、アフリカの人たちの明るい未来につながるのだろうか 4 学習のまとめ アフリカの経済発展には, 解決すべき課題も多く残されていることを知る。	アジア州を例に出すことで, 経済発展の光と影について疑問を投げかけ, 第3学年での学習につなげる。